廃墟再生マルシェ

温泉街の中心で、これからのみなかみに出会う。

温泉街の真ん中で眠っていた廃墟。「旧一葉亭エネルギーセンター」と「旧ひがき寮」にて、10月8日（日）・9日（月）の2日間、廃墟再生マルシェが開催されました。今回で2回目となる廃墟再生マルシェは、廃墟を再生しながら温泉街の未来を描く社会実験です。今回も東京大学大学院都市デザイン研究室が中心となり、草刈りや瓦礫の撤去など、様々な努力を積み重ね、廃墟の存在感が強かった温泉街で過去・現在・未来が交差する魅力的な空間が作り出されました。

メイン会場「旧一葉亭エネルギーセンター」

廃墟再生マルシェのメイン会場となった旧一葉亭エネルギーセンターは、旧客室・温泉施設・従業員寮・機械室など、様々な用途を転々としてきた建物です。水上温泉街の中心に位置しており、温泉街の玄関口となる温泉街駐車場が隣接しています。また、利根川とも隣接し、豊かに生い茂る渓畔林や川音を楽しむことができます。

会場では地域の様々なお店が提供するワークショップをはじめ、地元の食材を使ったグルメ、宿泊施設で使われていた食器など、みなかみ町に縁のある生活雑貨や食品が販売されました。2日間で2会場合わせ、約3000人が訪れ、来場者

どうして残された？「大型宿泊施設廃墟群」

1970年から1980年代、高度成長期からバブル期にかけて大型の宿泊施設が建設され、関東の奥座敷として多くの団体旅行客で賑わった水上温泉。しかし、その後のバブル経済の崩壊と観光客の旅行形態が団体旅行から個人旅行に変化したことにより、宿泊施設は次々と廃業してしまいました。建物を取り壊すとしても所有者の特定や解体費用が問題となり、建物だけが現在まで残ることとなりました。

建物・敷地の変遷「戦前戦後をを生き抜いた建物」

今回メイン会場となった旧一葉亭エネルギーセンターを含む建物群と敷地は、戦前は「旧古家ホテル」、1950年代からは「旧古家ホテル」と「旧ひがきホテル」と「旧東京ホテル」の共存状態、1970年代からは「旧ひがきホテル」、2017年に「旧一葉亭」と変遷してきました。今回メイン会場となった建物と敷地は、増改築を繰り返しながら、様々な時代を生き抜いてきた歴史があります。

明治初期創業「旧古家ホテル」

「旧古家ホテル」は明治初期創業で温泉街で最も古い温泉旅館の一つでした。1929年頃の当時から利根川にせり出して建てられており、現在以上に豊かな河畔林に囲まれていました。

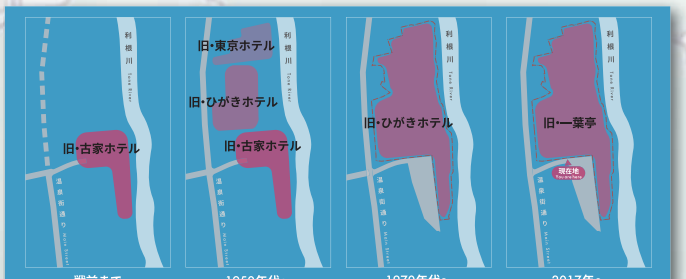
戦時中、水上温泉は東京・板橋のこども達の疎開先となり、その中でも「旧古家ホテル」は最も多い児童を

1945ごろ

出典：板橋区教育委員会
生涯学習課 編
『学童疎開 古家ホテル記念帳』
板橋区教育委員会

1929ごろ

出典：桑原健次郎 編
『写真集明治大正昭和沼田：
ふるさとの想い出72』
国書刊行会



敷地の変遷ダイヤグラム Transition of this site

は、落ち着いた音楽の流れる会場の雰囲気を楽しみながら各ブースを巡りました。

サブ会場「旧ひがき寮」

数年前までは雑草で覆われていた旧ひがき寮は、草木染めの小物やドライフラワー、オーガニック食品、リラクゼーションショップが出店したほか、ギャラリーとしての歴史展示やキャンドルナイトの会場として活用されました。

東大チームがこれまで調査してきた「芸者の一日」や「現在と過去の土地利用」などの水上の歴史。誰かが語り継がねば忘れ去られてしまう歴史を一つ一つ丁寧に紡ぎ、東大生の解説を交えながら展示しました。

キャンドルナイトでは、目で見て楽しむのはもちろん、キャンドルから香る優しい香りや当日の雨で感じられる湿度が相まり、まさにこの場所でしか感じられない空気感が演出されていました。来場者の方々は、雨降りの傘の中、コーヒーで温まりながら、目の前に広がる「非日常の世界」を楽しみました。

温泉街のこれからを考える「産官学金連携まちづくり」

このイベントは令和3年9月22日より始動した、株式会社オープンハウスグループ、みなかみ町、国立大学法人東京大学大学院工学系研究科、株式会社群馬銀行が連携して進める「産官学金連携まちづくり」事業の一環として実施されています。

今後も地域の皆さまと事業に関わる多くの方々のお力添えをいただきながら、水上温泉街の将来像をともに描き、「旧一葉亭」および「旧ひがき寮」の活用・再生を進めていきます。

大規模建築化と賑わう広場「旧ひがきホテル」

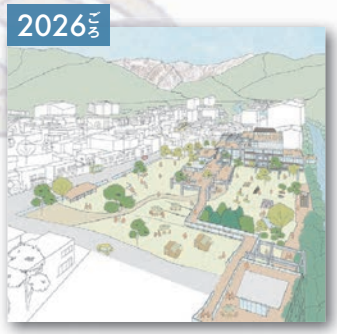
戦後に開業した「旧ひがきホテル」は、隣接していた「旧東京ホテル」を買収するなど、急速にその規模を拡大していきました。6階建ての建物「旧ひがきホテル・第一別館」は、1961年に建築されました。当時、鉄筋6階建てのエレベーターが付いた旅館は、群馬県初であり、水上温泉街の高層旅館建築の先駆けとなりました。

「旧ひがきホテル」が周囲の土地を段階的に取得する中で、温泉街通りに面した「お祭り広場」が設けられ、「おいで祭り」や「水の盆」など多彩な催しで賑わいました。

旧ひがきから旧一葉亭、未来へ「産官学金が描く、廃墟再生」

「旧ひがきホテル」は2017年に「旧一葉亭」となり、2019年に閉業。2022年から「産官学金連携まちづくり」事業の一環として再生に着手し、敷地内の建物が一部減築されました。

「産官学金」が描く、廃墟再生ビジョンとして、将来的に敷地の中央部分に大きな広場を設け、谷川岳や周辺の山並みへの眺望を取り戻し、温泉街通りから利根川の水辺まで、来訪者が水音とともにゆったりと時間を過ごせる環境を提案します。より多くのみなかみを愛する方々にお越しいただき、豊かな自然を楽しみながら、水上温泉街の魅力を感じていただきたいです。



※写真、図、記事は東大チームの作成したパネル展示から引用しています。